



夢見るうつわ

自分の手の感覚で、
少し夢のある“かたち”を生み出す

そして、色つけて焼くと
オリジナルの“うつわ”が手元に戻ってきた

その器で飲んだお茶は、その器に入れたクッキーは

いつもより少し 美味しかった





中学3年生で取り組む、陶芸。

粘土の感触を楽しみながら、自身の手の感覚をたよりに、土の塊を器状に成形します。

乾燥後、約800度の温度で一度素焼きし、色を付ける「釉掛け」を行います。

自分の作品の最後に決め手になる釉薬はとても大切な作業で、真剣さが伝わってきます。

夢見るうつわ

1230度の窯で焼成し、自分たちの手元に戻って来た器の表面は、普段、自分たちが使用している陶器と同じように「ツルツル」のガラス状になっていました。

自分の作品に愛着を感じるまなざしは、うまくいった満足感、思うようにならなかった感覚が入り交じっています。クラスの友達の商品を見て回り、作品の交流も行います。

最後は、自分だけの器で、お茶とおかしを味わい、実際の使い心地を確かめます。

どんなことが起こるか分からない。けれど、自分の手の中で様々に変化し、粘土から陶器に変わるプロセスを味わう中での発見が、何よりも大切。

